

第3回 匝瑳の魅力ある海岸づくり会議 会議録（概要版）

日 時 平成25年3月2日（土）

午後2時00分～4時00分

場 所 匝瑳市野栄総合支所

参加者 別紙

配布資料 会議次第

座席表

委員名簿

会議傍聴要領

匝瑳の魅力ある海岸づくり会議規約

意見用紙

資料—1 第2回匝瑳の魅力ある海岸づくり会議の結果概要

資料—2 匝瑳市における海岸の位置づけ

資料—3 匝瑳市海岸の情報マップ

資料—4 匝瑳市海岸の海岸づくり（侵食対策）について

【議事内容】

1. 開会

事務局から以下の点について確認した。

- ・ 傍聴における注意の説明
- ・ 配布資料の説明

2. 挨拶

匝瑳市太田市長から挨拶

- ・ 県と連携をとりながら、より良い海岸づくりをしたいと思っています。

会長から挨拶

- ・ 多くの方々からアンケートの回答を得た結果、海岸に対して関心が高いことがよく分かりました。
- ・ 本日の県の提案に対して、皆様のご意見を賜りたいと思っています。

3. 議事

(1) 第2回匝瑳の魅力ある海岸づくり会議の結果概要

事務局から、第2回匝瑳の魅力ある海岸づくり会議の結果概要を事務局から簡単に説明した。（資料-1）

(2) 匝瑳市における海岸の位置づけ

A 委員から、市の計画について説明した。(資料-2)

- ・ 津波に対する対策が非常に重要と考えています。
- ・ これに対して、住民の生命と安全を第一にと考えています。
- ・ 海岸線自体が匝瑳市にとって、非常に重要な観光資源であると位置付けています。
- ・ 海岸だけではなく匝瑳市全体としてのバランスの良い計画を考えています。

【意見・質問】

(B 委員)

- ・ 3.11 以来、生命を守るため、津波の対策として、6m 程度の土堤で守るということになっていますが、実際の津波の高さはそれよりも高く来ているので、不安であると感じています。
- ・ 匝瑳市としても、堤防だけではなくて、避難計画などのソフト対策についても考えていかなければいけないと思います。
- ・ たとえば、海岸線に緊急連絡用のスピーカーを設置するなどの整備は出来ないのでしょうか？
- ・ 土堤に使っている土がものすごく汚いです。
- ・ 今現在、土嚢が置かれているのですが、土嚢だけでは到底津波を防げるとは思えません。

(会長)

- ・ 非常に重要な意見であると思います。
- ・ 津波に対する対策については、別途委員会を開いていますので、今後、具体的なものになったら、県のほうから時期を見て、報告して頂きたいと思います。

(3) 匝瑳市海岸の情報マップ

事務局から、匝瑳市海岸の情報マップについて説明した。(資料-3)

- ・ 「アンケート結果の発表」を基に、海岸の情報マップについて報告した。
- ・ ゾーン区分や対策の必要な箇所を利用・環境・防護の観点から確認した。

【意見・質問】

(副会長)

- ・ 【資料-3、P7-8】どちらのスライドも同じ写真を使っていますが、匝瑳市海岸において、今となつては二度とみられない非現実的な写真なので、科学的に調査をする場合には、アンケートに使うべき写真ではないのではないのでしょうか？
- ・ 【資料-3、P18】下の図面を見てみると、南に行けば行くほど、利用や環境についての評価が良くなっています。すなわち、この図面は、新川沿い(北側)から順番に駄目になっていくことを示していると思います。現状で利用や環境についての評価の高い 11-12 号ヘッドランドの間も、時間の経過とともに、8-9 号ヘッドランドの間と同様の状態になることが予想されます。現状の深刻さに対して、良いことばかりを並べているように見えてしまうので、現実起こると予想されていることを認識して頂きつつ、対策について考える必要があると思います。

(会長)

- ・ 副会長から意見がありました、その他にご意見ございますか？
- ・ 以前はかなりの海水浴客が来たと思うのですが、現状はどうなっているかなどのご意見はありますか？

(C 委員)

- ・ 昨年の夏までは、9 号ヘッドランドの北側でもサーフィンが出来ている状態でした。今後、段々と砂浜が無くなっていくことは予想できるので、いずれはサーフィンが出来なくなると考えています。
- ・ 理想としては、何とか砂浜を維持して、色々な方々が利用できるようにすることですが、非現実的ということならば、どこかの海岸までを守ることができるのかを聞かせて頂きたいと思います。

(副会長)

- ・ 誤解を招いてしまったと思いますが、非現実的というのは、実現可能ですが、それには皆様の相当な熱意と努力が必要であるということをお願いいたします。

(D 委員)

- ・ ハマグりは我々が生活するのに大事な資源で、その資源を守るために海岸パトロール等を含む様々な活動をして、なんとか生活が出来るようになりました。昨年の 11 月には県知事の協力の下、PR 活動等を行って、消費拡大に努めているところです。もし、侵食対策として大量の砂を養浜すると貝類が死滅し、生活が出来なくなってしまいます。
- ・ 過去のヘッドランド建設の際に多くの漁業者が反対する中、当時の町長らの要請により苦渋の決断でヘッドランド建設を容認しました。ヘッドランドが出来てからでないと養浜には納得できません。

(会長)

- ・ 色々なご意見を頂きました。どうもありがとうございます。観光協会の方から整備のあり方について何かあればお願いします。

(E 委員)

- ・ 現在、海岸線には海水浴場が無い状態にあります。海岸のある匝瑳市にとっては異常事態です。
- ・ 砂を養浜することで、ハマグリに影響が出るのではないかという D 委員の意見も十分にわかります。
- ・ 漁港を作ると砂浜が増えるので、新川のあたりに漁港を作るのはどうでしょうか？
- ・ それから観光の面からですと、砂が増えて遠方からたくさんのお客さんが来るようになれば良いと考えています。

(会長)

- ・ 本日はたくさんの区長の方々がおられますが、何か意見はありますでしょうか？

(F 委員)

- ・ D 委員の意見に同感です。

(D 委員)

- ・ 波崎の北寄りの海岸を見に行ったのですが、とても良い海岸でした。
- ・ 九十九里浜北部では護岸工事が進められているところがありますが、護岸工事には賛成で

す。

(C 委員)

- ・ 私は、漁業関係者の方々と対立するつもりはありません。護岸を整備するのはいいのですが、かんぼの宿の前のように砂浜の無くなった状態でも漁業が出来るかを考えてほしいと思います。
- ・ 私は養浜に関しては賛成で、ただし、双方に利益になるように、漁業関係者の方々と協力しながらやっていきたいと考えています。

(F 委員)

- ・ アンケートへの回答に感謝します。
- ・ 双方の意見を含めつつ、今できる技術を使って、集中的に対策を行うことが重要だと思います。
- ・ 南九十九里浜では砂を入れ続けたことで、徐々に沖に砂州が出来てきて、貝や平蟹の生育場になりました。
- ・ 全ての海岸に対策を行うことは難しいかもしれませんが、どの場所を集中的に対策してほしいかを、ぜひ教えて頂きたいと思います。

(副会長)

- ・ F 委員の意見に全く賛成です。
- ・ この九十九里浜北部は対立がきつくて、対立している間に砂浜が無くなってしまおうという状態になりつつあります。漁業者、サーファー、近隣住民にとってメリットのあるアイデアを出して下さいと要求して頂きたいと思います。切磋でもできるという希望を持ってほしいと思います。
- ・ 委員の皆様で、南九十九里浜を見に行ってほしいと思います。

(F 委員)

- ・ サーフィンをするのに良い波の立つ場所では、貝も戻ってきています。逆に、波が立たなくなった場所というのは貝も平蟹もなくなってしまいます。実は、目標が共通しているので、砂浜を回復することが重要ではないかと思います。

(会長)

- ・ 全ては関連していて、砂浜を回復させることは、観光・漁業・レジャーにとって重要なことは共通していると思います。

(4) 匝瑳市海岸の現状について

副会長より、11月18日の現地踏査の結果報告した。

【意見・質問】

(会長)

- ・ 全てが関わっていて、砂浜を守ることは生物を保護し、サーフィンや海水浴をできるようにすることになることが良く分かりました。
- ・ また、現状のままですと、いずれ砂浜が無くなってしまっても分かりました。

(G 委員)

- ・ 津波対策として、土嚢を 6m の高さで作る話ですが、崩れてしまうと結局意味が無いのではないのでしょうか？
- ・ 私たちは津波対策について詳しい内容を聞いていないので、とても不安です。

(副会長)

- ・ おっしゃる通り、現状で何も知らされていない状態で、安心してくれというのは難しいことは十分に承知しています。
- ・ 今、県のほうで、どのようにすれば、侵食しにくく、津波に対する被害が少なくなるのかを検討している段階です。
- ・ これに関しては、どんどんと意見を県に出して頂きたいと思います。これによって、津波対策が前向きに進むと思います。

(B 委員)

- ・ 6m の土嚢を作ることは可能なのでしょうか？

(副会長)

- ・ 可能です。

(会長)

- ・ 侵食対策にも関わることですが、津波対策については、別途委員会の方で検討して頂きたいと思います。
- ・ どちらにしても、砂浜がなくなっている現状で、どうすれば良いのかを考えることが重要であると思います。

(5) 匝瑳市海岸の海岸づくり(侵食対策)について

事務局から、現状を受け、次の工法提案、効果、具体的な計画等について提示・説明した。また、実際に神向寺海岸で実施された粗粒材養浜の事例を紹介した。(資料 4)

【意見・質問】

(会長)

- ・ 今、皆様に提示している粗粒材は、実際に神向寺海岸で使われた例として提示しています。この粗粒材を養浜材として使うというわけではありません。
- ・ 実際に粗粒材養浜を行うことで、砂浜が回復したという成功例もたくさんありますので、そのあたりについて、副会長からお話を聞きたいと思います。

(副会長)

- ・ 砂利のようなものを入れることは、九十九里浜になじまないという意見があることは理解していますので、今お見せした粗粒材そのものを入れるわけではありませんが、0.1mm の細砂を養浜したとしても、大量に養浜をした場合を除いて、すぐに効果を発揮することは期待できません。
- ・ 九十九里浜全体の今の状況から大量の細砂を採取できないことを考えると、他県から砂を調達することも考える必要があると思います。
- ・ 今お見せしている粗粒材だと、生物や利用に影響が出るのではないかという意見もあるかと思

いますが、神向寺海岸と同様の粒径にする必要はなく、環境や利用を考慮して、神向寺海岸よりも粒径の細かいものにすることも可能だと思います。細砂と粗粒材をブレンドして養浜することも考えられると思います。また、生物への影響についてはF委員の協力を得てきちんと調査する必要があると思います。

- ・ 県の提案は、試験的に行ってみて、上手くいかなければ、中止するかあるいは新たな対策を考えるというようなソフトの提案という理解でよいと思います。

(H 委員)

- ・ 茨城県の養浜事例を見ると、ヘッドランドがあって初めて出来るのではないのでしょうか？ 匝瑳市海岸ではヘッドランドがまだ完成していないので、養浜しても効果が出ないのではないのでしょうか？

(副会長)

- ・ 完成している方が良いですが、現況のヘッドランドは養浜砂が漏れ出さないための十分な長さを有しているので、ヘッドランドが完成していなくても養浜の効果は出ます。
- ・ ヘッドランドが完成するのを待っていると、完成した時には砂が無くなっている可能性があります。

(会長)

- ・ 皆様ご存知の通り、新川のあたりでは、状況が厳しくなっています。今後、同様の状況が南側でも起こることは目に見えています。
- ・ 時間に限りがありますので、ヘッドランドを作りながら、養浜で減った砂の部分の補填をすることで、平行に進めていくことが良いのではないかと思います。
- ・ 粗粒材養浜については、現在いろいろなところで行われており、成功する可能性があることが分かっていますので、環境や利用に配慮しつつ、第一段階として、実験的に、砂を入れてみるのが良いのではないのでしょうか？
- ・ 実際に実験的に養浜を行って、成功している場所もあります。例として、茅ヶ崎海岸を見に行くこともお勧めします。
- ・ 県としては実験的にやりたいとのことですが、皆さんの意見はどうでしょうか？
- ・ 委員の皆様からご了承を得られた場合には、どの位置にどのくらいの養浜を実験的に行う予定なののでしょうか？

(事務局)

- ・ 12号ヘッドランドから北側に100mの範囲で5,000m³程度を予定しています。

(D 委員)

- ・ 茨城県の砂には砂鉄分が1%しか含まれていませんが、九十九里の場合には砂鉄分を3%含んでいます。このことを考えたときに、九十九里浜に適した砂はあるのでしょうか？

(副会長)

- ・ 茨城県は砂鉄がなく、九十九里には砂鉄があるという指摘はおっしゃる通りです。茨城県に比べて、九十九里浜の砂は砂鉄を含んでいて重たいので動きにくかったということにつながると思います。
- ・ 粗粒材を養浜ということは、重たい砂を養浜することに似ていて、比重を大きくする代わり

に粒径を粗くすることで対応するという理解で良いと思います。

(B 委員)

- ・ もし、住民が納得すれば、やってくれるのでしょうか？
- ・ 結局、アンケート調査の結果も、理想像ばかりで、現実味が無いと感じてしまうので、できれば、今考えて下さっていることをやって頂きたいと思います。不安もありますが、このままやらないで、侵食が進んでいくのを眺めるよりも、上手くいく可能性があるならば、ぜひやって頂きたいと思います。

(F 委員)

- ・ もっと地元の皆さんで話す機会を増やして、たくさんの方の資料をもとに、皆さんで議論する時間を作って頂きたいと思います。スピードをもって、事業を進めるならば、土木事務所も含めて、もっと細かい話を詰めることが重要だと思います。せっかく、意見を出せる場があるので、どんどんと意見を出して頂きたいと思います。
- ・ 先ほど、県から優先度についての資料がありましたが、どこを候補にしたいのかについて、地元の方々からも意見を頂きたいと思います。

(会長)

- ・ 匝瑳市の海岸を何とかしたいという思いは皆様同じであると思います。
- ・ 今回、粗粒材の投入を試したいということですが、いかがでしょうか？

(H 委員)

- ・ もし実験的に養浜を行う場合の場所はどこでしょうか？

(事務局)

- ・ 12号ヘッドランドの付け根から100mの範囲での陸上養浜を考えています。

(会長)

- ・ 実証実験という位置づけとして実験を行うというのが県の意向のようですが、いかがでしょうか？

(副会長)

- ・ 実際にやって、現場を見たり歩いたりして頂いて、フィードバックをすることを条件に同意するのが良いのではないのでしょうか？

(会長)

- ・ 今後皆様の方から意見したり、提案したりすることは十分に可能です。
- ・ いつやりたいかは、決まっていますか？あくまでも、皆さんとの話し合いの中で、最適な時期を選定するという理解でよろしいですね？

(事務局)

- ・ はい、そのように考えています。

(C 委員)

- ・ 実際に神向寺海岸に行ったのですが、粗粒材養浜自体はサーフィンには影響ありませんでした。実際に行くかどうかは、漁業関係者の方々との調整もあるかと思いますが、協力してやっていければと思っています。

- ・ 実験的に養浜をする箇所についてですが、一番減っているのはヘッドランド間の中央部で、不安の原因も中央部の侵食が激しいことにあると思うのですが、そのあたりのことも考慮して頂いているのでしょうか？また、護岸は吉崎浜のように建設し続けるのでしょうか？

(副会長)

- ・ 現状ではヘッドランドのヘッド部が完成していないので、海岸中央部の浜幅は瘦せず、計画している位置に養浜したとしても、効果の検証は十分に可能だと思います。また、県としては、工事のしやすさや安全性など、様々なことを考えて、今の提案している場所になったのだと思います。

(C 委員)

- ・ 護岸についてはどうでしょうか？

(副会長)

- ・ 護岸を建設したくないので、養浜をしようと考えているのだと思います。
- ・ 壮大な計画になりますが、もし、100 万 m³ ぐらいの砂が調達できるならば、護岸を全部埋めることも可能だと思います。

(C 委員)

- ・ 実験結果が見えるまでの間は、どうするのでしょうか？

(副会長)

- ・ 茨城県でも実際にやられたことですが、実験をしている間の応急的な侵食対策として沖合に細砂を養浜するなどの、護岸を作らなくても良いようにする方法は色々あります。
- ・ もし、合意頂ければ、様々な可能性が広がると思います。

(F 委員)

- ・ 護岸を建設するにしても、前に砂があるかどうかで護岸の壊れ方も全然違います。砂で「裾野」を作っていないと護岸を建設したとしても、いざというときに目標とする効果を発揮できないということになると思います。

(会長)

- ・ 皆様、色々細やかな意見や質問があると思いますが、それについては事務所に問い合わせて頂きたいと思います。
- ・ 方向性としては、現地実験をご了承して頂いたということでよろしいでしょうか？

(D 委員)

- ・ 危ない材料はいれないで頂きたいと思います。

(副会長)

- ・ もし、危ない材料を養浜材に使おうとしたならば、入れては駄目だと意見して頂くのが良いと思います。

(会長)

- ・ 事前に連絡をして、実際に養浜する前に材料を確認して、皆様の反対するものは入れないということで、合意して頂くとうよろしいでしょうか？
- ・ 反対意見がないようですので、合意と致します。

4. 閉会